一ノ倉烏帽子奥壁南稜

2009 年 10 月 25 日

山本実（L,記）平本三浩

10/25(日)　曇～小雨～曇

以前から一ノ倉に行こうと思っていたが、平本君と 9 月に御神楽沢に行った折にそんな話になって、ようやく実現することになった。思い返せばはるか昔、40 年ぶりぐらいになる。あの頃は毎週のように谷川に通っていた。週休 2 日ではなかった時代、土曜の仕事が終わってから急いで用意して上野発 22 時半だったか長岡行き最終に飛乗った。土合駅の長い階段を上がって、取付きに早く着くために出合まで早足で急ぐ。それほど谷川は混んでいたのだ。2,3 年そんなことをやっていると数あるルートも結構登ってしまった。そんな時、同じパーティではなかったが後輩を事故で失ってしまった。つらい思いをしたが、それからは谷川からは足が遠のいていった、、、

今はもう体力・技術も衰え岩壁登攀をする年でもないと思うが、一度思い立ったら諦めきれない性分。良きパートナーを得て初級ルートなら何とか行けると、今テールリッジを息を切らせながら登っている。要所要所にはフィックスが張られて難なく中央稜の取付きまで上がってしまう。上はガスっていて見えないがときどき衝立の頭ぐらいまでは見透かされる。紅葉も盛りは過ぎたようで一ノ倉沢全体に閑散とした寂しさが漂う。南稜テラスにはなんと先行パーティが 6,7 人もいた。今日は中央稜と中央カンテに各 1 パーティ、あとは全て南稜という状態で、もう少し早く出ればと悔やまれたが致し方ない。寒空の中 1 時間以上時間待ちとなってしまった。以前だったらルート変更してサッサと転進したがいまはもうそんな気持にはなれない。腰を落ちつけて先行者のやり取りを眺めているほうが面白い。中に初心者がいてもたついていたがようやく順番が回ってきて、1 ピッチ目平本君リードで登り始める。

以降ツルベでザイルを伸ばしてゆくが最初のフェースにしろ続くチムニーにしろ軽々と動けない。このチムニーはこんな厄介だったかなと途惑うが、落着いていけば何とかなる。２ピッチ目、急だがホールド豊富なフェースをリードすると、ようやく岩の感触を楽しむ余裕も出てきた。草付から左斜上する緩い壁を登ると、上に最終ピッチのフェースが見えた。これは行けるなと思いながらフォローをビレイしていると小雨が降ってきた。前のパーティもすぐ上にいる。平本君を迎えて相談するが、すでに 11 時半。このまま続行しても出合に戻る前に暗くなるだろうと彼は言う。残念だがもっともな理由なので、撤退することにした。まあ欲張ってもしょうがない、分相応ということでそのまま南稜を下る。懸垂 3 ピッチで南稜テラス、荷物をまとめてテールリッジへとトラバース下降するが、小雨に濡れはじめた岩は実にいやらしかった。テールリッジはフィックスを使って苦労せず、ヒョングリの滝は左岸にフィックスがあったので沢通しに下れてしまった。

出合手前で一ノ倉を振り返れば、朝来た時と同様に上半分がガスの中に隠れている。ジッと見ているとここでいろいろな経験をさせてもらったことを思い出す。紅葉の林道を辿りながらまた来てもいいかなと考えていた。

ロープウエイ駅 5：40～一ノ倉出合 6：30-6：40～南稜テラス 8：30-9：40～馬の背リッジ下 11：30～南稜テラス 12：30-13：00～一ノ倉出合 15：30～ロープウエイ駅 16：20